

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902488		
法人名	有限会社 ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	旭川市神楽4条1丁目2番4号		
自己評価作成日	平成25年9月12日	評価結果市町村受理日	平成26年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の体操や散歩をはじめ、生活上の家事などできることを一緒にし、日々笑顔をたくさんいただけるよう不安や不快のない様スタッフ一同取り組んでおります。誕生会、お楽しみ会を月に一度開催し、家族との団らんを楽しんでいただいています。本人の思いを大切に、まさに玄冬の時期を穏やかに、楽しく、そして安心した生活が送れるよう、ともに全てを分かちあえる関係を作れるよう日々考え、日々悩み、日々笑顔を絶やさず取り組んでいます。又、町内会の方々にも暖かく見守っていただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902488-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成26年1月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<思いや意向を把握した生活支援>
一人ひとりの生活歴やこれまでの生活環境把握に努め、口腔体操やラジオ体操等で身体機能の維持・向上に努めながら近隣遊歩道での散歩や外気浴、畑作業や花の手入れ、季節に合わせたお祭り見物やお花見等で張り合いのある日常生活を送れるように支援している。
<家族等との協力関係づくり>
毎年「ひだまり祭」の開催で家族との交流の場を作ったり、来訪時には日常生活の様子や要望等話し合いや意見・悩み等を言い表せる機会を作り、そこでの意見を運営に反映できるよう職員間で話し合い、サービスの向上に努めている。また、一人ひとりの一日の特徴のある本人の言葉等を「一日一行日記」にまとめ毎月、家族に送付していると共にアンケート結果から満足度が非常に高いことが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念、5つの「あい」を掲げ、入居者の思いや意思を尊重できるよう、職員同士その人の立場になって物事を考え相談しながら支援に繋がっている。	事業所独自の理念をつくりあげ、日常業務やミーティングを通じて話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会へ加入しており、総会などへの参加や地域幼稚園での運動会や学芸会行事への参加見学させていただいている。散歩などでも近隣の方と会話を心がけている。	毎年「ひだまり祭」を開催して家族や近隣住民、地域の人達や子供たちが参加したり、幼稚園の運動会や学芸会への参加や見学、地域の美化運動参加など地元の人々との日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・町内会を通じ、認知症やグループホームでの取り組みなど、又、相談援助を行うなど利佳代わりを持っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・自己評価、外部評価の報告を行い、日常のホームでの取り組みについても定期的に報告し、頂いた意見を基にサービスの向上に活かしている。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、救急救命訓練やボランティアの受け入れ等具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進委員会に、毎回参加して頂いている。現況報告やその他の書類提出時は郵送せず直接持参し担当者とは会うようにしている。相談も積極的にしている。	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換に努め、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ミーティングの中で、具体的行為を示し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。 ・居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間以外は鍵をかけてない。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について身体拘束廃止委員会で話し合い、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティングにおいて、高齢者虐待の事件を取り上げ話しあっている。事件が身近で起こらないよう周知徹底している。又、ホーム以外でも見かけることがあった場合は、速やかに対応するよう話している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員全て理解を深めていかなければならないこと。ホーム以外で制度を学ぶ機会を設け、活用するまでに至っていないが、人権擁護に対する意識を持って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入退居時は施設長と管理者が対応し、契約書や重要事項説明書各項目ごとに説明、理解を得られている。改訂時は説明し同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・入居者からの意見、苦情、悩み、不満など、日常的に行われているミーティングで吸い上げ、又、家族の要望等を都度対応できるよう職員と協議し運営に反映させている。 ・運営推進会議でも意見等確認している	一人ひとりの日常生活の様子や一日の特徴のある本人の言葉等を「一日一行日記」にまとめ家族に報告していると共に、来訪時など意見・悩み等を言い表せる機会を作り、そこでの意見を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・施設長による、定期的な個別面談の実施し、意見及び提案を聞く機会を設け、運営会議（管理者会議）等で反映できるよう話しあっている。	施設長による定期的な個別面談の実施で意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員を忘年会へ招待し職員同士の交流を深めたり、評価による手当の考慮等行っている。又、職員の働くための条件も考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・入社当初は、経験ある職員との同行研修（GOT）、経験後はホームでの勉強会を行っている。又、加入のグループホーム協議会や研究会開催の研修や事業所での勉強会参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・代表者と管理者は、ケア研究会等も含め交流しているが、職員同士の交流は少ない為、職員の見学会参加を予定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居相談においては、できる限り本人の見学を呼びかけ、実際の生活の場を見ていただきながら要望、困っていること、不安など傾聴し入居時の混乱や不安のない様職員への対応方法など周知できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居希望時からホームでの生活における要望や困っている事など予め確認し、出来ることや出来ないことなど話し合いを行っている。入居後も同様に信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前のアセスメントにおいて必要な支援を確認し、状況により家族に説明と情報提供して、納得して頂けるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・食器拭き、洗濯物干し・たたみ、シーツ交換や居室の掃除など、本人の出来ることは職員と協力し合いながら行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・一行日誌を通じて、本人の様子を伝えている。来訪時も本人の必要な物など伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の協力を得ながら本人の希望を聴き、それに添えるように支援している。	幼稚園の訪問や近隣の散歩、お墓参りや地域の行事参加等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士の関係を考慮しながら、職員が気を配り中を仲裁(取り持つ)歯痛良い関係作りが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了時は、ほとんどが病院入院となるが、今後の方向性を確認、SWとも話し合いを行い、他サービスへ繋げる取り組みを行っている。その後も家族等の相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の意思を尊重している。意志表示が出来るような声かけをしている。家族からも聴き取りなど行い、本人の希望や今までの生活習慣を出来る限り維持できるよう心がけている。	口腔体操やラジオ体操等や懐かしい歌の歌唱で声を出す取り組み等で身体機能の維持・向上に努めていると共に近隣遊歩道での散歩や外気浴、畑作業や花の手入れ、季節に合わせたお祭り見物やお花見等思いや意向を把握しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居者本人から把握できない場合は、ご家族や入居前に利用されたサービス事業所から得る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・業務開始前の挨拶で、入居者さんの表情や声の調子、話の内容でその日の状況や状態把握と、介護記録等でも状況把握により、スタッフ間で情報共有している。 ・日々の状況や言動を含め支援経過記録に記載し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の希望や家族の考え、カンファレンス、モニタリングを通じ、職員の意見を介護計画に反映させている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の希望やカンファレンス、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・かかわった職員が(本人の言動やどのような行動をしていたのかなど)介護記録を記入し、それを基に気づきや工夫を考え、職員間で情報の共有し実践と介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の嗜好品やおやつなどの買い物や、通院など家族の負担を考慮し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・隣接するホームとの交流を行ったり、住み慣れた近隣の方との交流をすることで、楽しみや喜びを感じて頂けるよう配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回の内科医往診を紹介しているが、あくまで本人、家族の希望を取り入れている。 ・24時間365日の医療連携体制を構築、健康管理・相談などを日常的に行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携の看護師が週に一度ラウンドにきたときに状態を報告している。相談もを行っている。又、急変時には都度連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者が入院した時は頻回に面会し、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談し、都度家族へも報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・日常的に病状などの把握により、状況によって早めに、家族やかかりつけ医等と話し合いを行っている。 ・事業所としての関わりの見極めを行い、今後の変化に備えて都度の検討や準備を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時や事故発生時のマニュアルを整備している。又、ミーティング等でも対応方法を話しているが、定期的な訓練までは行っていないので、今後定期的に勉強会の実施を考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・スプリンクラーを設置し、年2回の避難訓練も実施している。 ・運営推進委員会や町内会総会でも協力を呼びかけている。	スプリンクラーや報知器・通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。また、年2回の火災避難訓練や救急救命訓練を実施し、緊急時に備えていると共に地域の協力が得られるように努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ミーティング等でも定期的に再確認しながら、言葉使いや態度に気をつけて、気分を損ねることのないよう十分配慮して対応している。	日常業務やミーティングを通じて一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の思いを引きでせるよう声かけには工夫をしている。レクや食事入浴など日常生活での意思決定を基本にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の状況や体調を見ながら、散歩に行かれたり、塗り絵、縫い物、冬は編み物もなど希望を聞きながら、自分の思いを受け入れられる1日を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・積極的に外出しての理美容は難しく、訪問理容を利用している。希望でパーマをかけられたり、衣類は本人の好みなどを理解している家族の協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食器拭きや下膳など一緒に行っている。 ・おやつは内容によって一緒に作って食べたり、食材の下ごしらえや食器ふき、片付けと一緒にするなど本人の力を活かしている。	食材の下ごしらえや配膳、下膳や食器拭き等職員と一緒にいき、一人ひとりの力を活かせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ひとり1人の体調や水分摂取量など医師と相談しながら対応している。個々で分量など決めている方もいるため、チェック表への記録と職員全員で共有し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個人の能力に合わせ、声かけし口腔ケアを行い清潔保持につとめている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄表を活かし、個人の状況把握に努め、あくまでトイレでの排泄を基本として対応している。又、失禁による自信喪失に繋がらないよう配慮している。	一人ひとりの排泄パターンを排泄表で把握しながら、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄状況は、排泄表を活用し把握している。状況によって、下剤などを移用している。又、医師にも相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2回の入浴日を決めてはいるが、あくまで本人の意思を尊重し、無理強いすることなく入浴を楽しんで頂いている。ただ、時間の希望をすべて取り入れることは難しい。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミングに応じて支援している。また、個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活習慣を活かせるように、又、夜間安心して眠れるよう不安などないよう傾聴して安心感をあたえられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬変更時等は口頭での説明と、受診記録等にも記載して把握できるようになっている。個人ファイルには最新の薬情報が綴られており常に確認し共有できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯ものや食器拭きなど1人ひとりに合わせ行っている。又、誕生会やお楽しみ会、ドライブなど個々の気分転換を図れるような行事を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天候によって、散歩など実施し、季節によりドライブ(時には弁当を作り持参する)や買い物などの外出の機会を設けている。又、お墓参りなどは、家族の協力を得て行っている。	法事やお墓参り、弁当持参のドライブや花見、近隣遊歩道での散歩や外気浴、畑作業や花の手入れや地域のお祭り見物等戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人がお小遣いを多少持っている方もおられる。その他の方は、ホームで預かり外出時や買い物(嗜好品など)などで使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望で、電話や手紙のやりとりの援助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホーム内は清潔に保つように、毎日の清掃、消毒を行い、室内や浴室等の温湿度の確認調整している。季節感を感じて頂けるよう壁飾りを担当職員と入居者と一緒で作成したり、行事写真を掲示するなど、生活感や楽しい空間作りを行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真等が掲示されたり、リビングからは庭の木々や花など見渡せて季節感を感じられ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・入居者同士の状況により、それぞれの居場所を検討して対応している。又、テラスや屋外にも椅子を設置し、自由に出入り出来る様対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居前に使用していた家具・ソファ、仏壇などを設置し、安心して生活できるよう工夫している。又、自分で作成した作品を飾っている方もいる。	居室には、使い慣れた家具や仏壇等が持ち込まれたり、人形や家族の写真等が飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内にも、必要と思われる入居者には手すりを取り付けたり、手の届く位置にタオル掛けを置き、おしぼり干しなど出来ることを行えるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまりの家

作成日: 平成 26年 1月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8 13 14	会議で簡単な勉強会を行っているが、権利擁護などの制度やスキルアップを語るための外部研修会への参加が少なく、又、職員は当ホーム以外の同業者との交流も少ない。	外部研修への参加をさらに促す。会議での勉強会を通じ、制度関係についても行う。神楽地区の同業とのネットワークを通じ、職員の交流を見当する。	外部研修の周知。今年度の会議においての勉強会へ取り入れる。地域ネットワークの利用。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。